

通信各社が災害用伝言板

海外からの安否確認サイトも

電話回線への集中や停電などで、被災地との直接の通話がつながりにくい中、通信各社は安否確認用に災害用伝言板などを設け始めている。

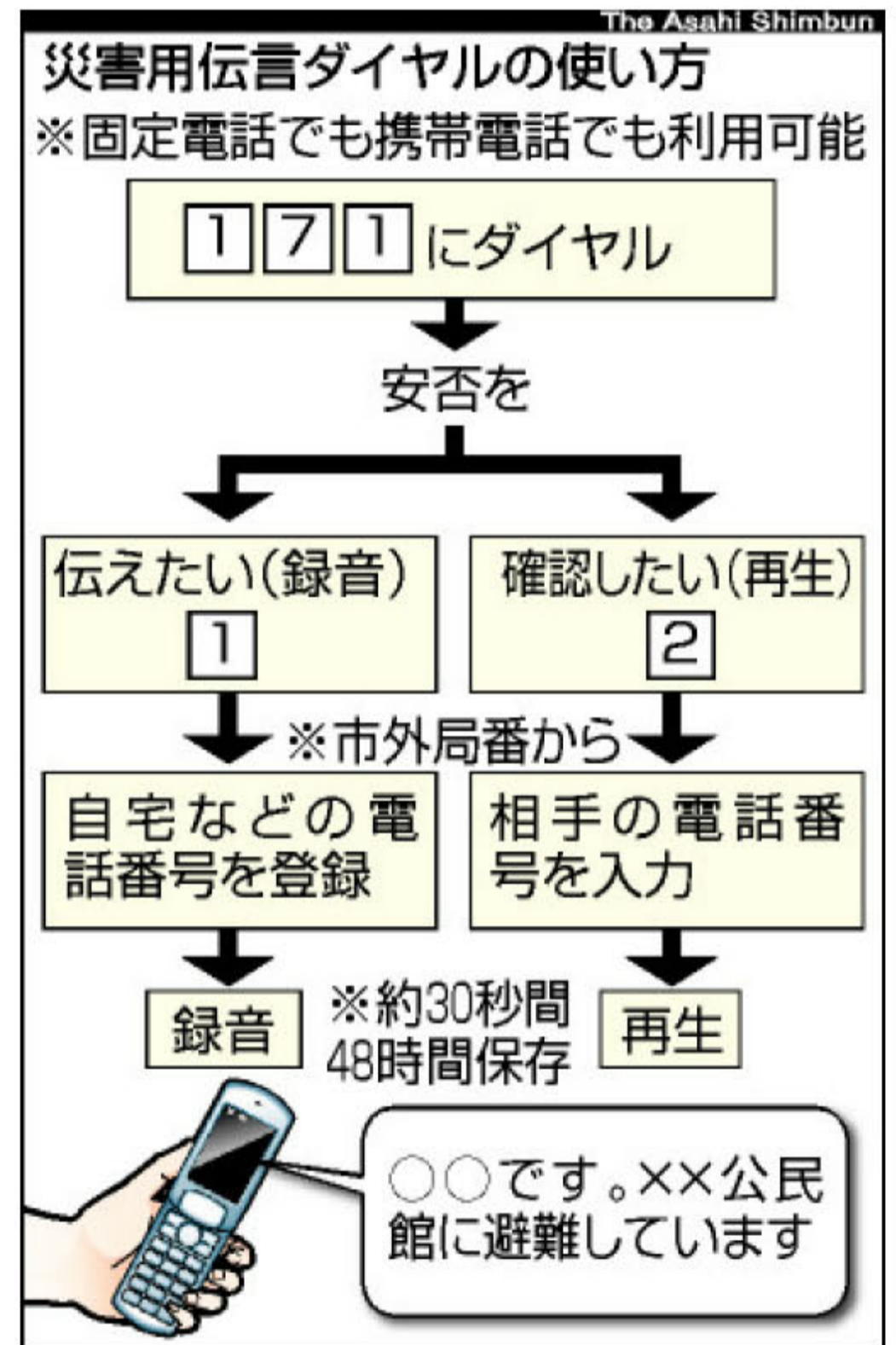
NTT東日本の災害用伝言ダイヤルは固定電話からも携帯電話からも利用可能。「171」をダイヤルした後、ガイダンスに従って安否情報を声で録音したり、聞いたりできる＝図。

同社は、パソコンや携帯電話を使ってネット上で安否確認ができる「災害用ブロードバンド伝言板」(<https://www.web171.jp/>)も開設。安否やコメントを100文字以内で入力し、電話番号を登録すると、番号を知っている家族や知人が確認できる。ただ、地震発生の日午後11時～12日午前3時半ごろの間に登録されたメッセージが保存できていない可能性があるという。

このほか、各携帯電話会社も、安否確認に利用できる災害用伝言板サービスを実施している。主なサイトは以下の通り。NTTドコモ(<http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>)▽au(<http://dengon.ezweb.ne.jp>)▽ソフトバンクモバイル(<http://dengon.softbank.ne.jp>)。

インターネット上では、グーグルが、安否情報の交換ができるサイト「グーグル・パーソン・ファインダー」(<http://japan.person-finder.appspot.com/?lang=ja>)を開設する。

東日本大震災を受け、赤十字国際委員会(ICRC、本部ジュネーブ)は11日、海外からでも被災者の安否確認ができる無料の専用サイトを立ち上げた。日本語の表示や入力が難しい海外のインターネット環境でもアク



セスできるように、英語になっている。

アドレスは(<http://www.familylinks.icrc.org>)。サイトに登録された被災者の名前の一覧を検索でき、そこに名前がない場合でも、探している人の名前や自分の連絡先の登録が可能。日本からも、海外に住む人に向け「自分は生存している」などと伝えることもできる。すべて英語表示のため、アルファベット入力できればコミュニケーションが取れ、日本の家族と離ればなれになっている場合などに利用できる。